

成長のために

勝川小学校 六年 村瀬 心結

「残してごめんなさい。」

これは、私が小学二年生の時に給食を残した時によく言っていた言葉です。どういふ事かというところ、当時の担任の先生が、給食を残す時は、その料理に謝ってから、かごに入れて下さい。と、言っていたからです。私はそれにつなげてこんな事も思っていた気がします。

「給食のおばさんたちには謝らなくてはいいいのかな。」と。別に調理室まで行って謝るなんてことはしなくていいけど、心をこめて、作ってくれた給食のおばさんに謝ろうと心に決めました。でも私はなぜそんなことを思ったのか、それは私が給食のおばさんだったら…と思ったからです。給食が返ってきた時に、どれだけ食べたかなと期待してしまいます。たくさん残っていたら、残念で悲しい気持ちになるからです。給食のおばさんたちは、無理に食べるとはいってないけど、少しずつ食べるとはいってないけど、少しずつ食べようね。給食は、みんなが成長するための栄養がたっぷりなんだよと私達を支えています。食材もその一つです。どう調理するかによって、栄養は異なるけど、必ずみんなが成長するのに大切だから、給食というものはあります。そして、何より、給食の時間は、楽しいです。その理由は、給食は食べながら友達と会話ができるし、みんなと食べる事が楽しいからです。そして私はこの作文を書くことで考えたことがありました。これから、多分苦手なものはでてくると思います。でも、少しでも食べられるようにと栄養バランスを考えて給食を食べます。これがやりやすいように、私は、「食べる順番」を考えます。この「食べる順番」さえ見つけければ、絶対に以前よりも、もりもり食べることができます。このように、給食は、私達の成長にとって、とても大事な重要不可欠な存在だと思えます。